沖縄の歴史情報研究を振り返って

宮嵜 洋一:九州大学文学部

九州大学の助手に採用された平成７年度、同時に、既に始まっていた本科研の分担研究者に組み込まれ、環東シナ海地域間交流史ー中国江蘇・浙江・朝鮮ー班の代表川勝教授の補佐役を仰せつかった。軽い考えで臨んではみたものの、この３年間かなり厳しい状況が定期的に襲ってきた。特に、データベースの校正作業や研究会参加・報告書の作成の時期である。学内の日常業務と自分の研究に加えたこのハードな業務は結構こたえた。

とはいうものの、研究会でのコンピュータの利用についての数々の報告では、歴史研究にいかに情報を使うかということを思い知らされ、また、研究会への参加を通して、日本史側の緻密な史料検証のやり方やコンピュータのハードとソフトの開発に携わる情報科学の現状を実感できたことは、こうした学際的な総合研究ならではでないかとも思う。また明・清実録のデータベース作成において、例えば現在自身の研究で硫黄生産を扱ったことがあるが、記事の中に琉球からの貢物に硫黄が含まれており、更に掘り下げて考えてみたいという思いを起こさせてくれるなど、結構ヒントを提示してもらった。

総体的に見て、果たして自分がこのプロジェクトにどの程度貢献できたかという点では若干自信はないが、逆に得ることは多かったと考えている。